

久留米

〔March 20, 2018〕

高専通信

第86号

久留米工業高等専門学校

〒830-8555 久留米市小森野1-1-1

TEL:0942-35-9300

<http://www.kurume-nct.ac.jp/>久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二卒業生・修了生に贈ることば
異分野・他分野への理解とオーナーシップ

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。卒業生・修了生の皆さんは、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」という教育理念に基づいて各学科・各専攻において周到に用意されたエンジニア育成のためのプログラムを立派に修得され、卒業・修了というこの佳き日を迎えられました。皆さんのこれまでのご研鑽とご努力に深く敬意を表します。

さて、ここで、卒業生・修了生の皆さんが今後社会で仕事をしていくに当たって大切だと思われるキーワードを二つ申し上げたいと思います。

一つは、「異分野・他分野への理解」です。久留米高専では、一学科複数コース制（いわゆる括り入試制）をとっており、本科においては入学時から卒業まで基本的に同一の学科・クラスで授業を受けます。そこには、基礎から応用まで工学の一貫した専門教育を重視する精神が息づいています。しかし、それは、久留米高専が分野横断の教育をなおざりにしているということを意味していません。ものづくり教育センターでは、機械工学科だけでなく、他学科も実習を行っています。各学科の教員は、共同研究だけでなく授業の持ち合いにも取り組み、異分野・他分野に関する一定の素養を備えた技術者の育成に力を注いでいます。

ソニーの創業者である井深大さんは、戦前日本測定器株式会社の常務として活動していた時のことを次のように記しています。

「ここで私たちは測定器などいままで世の中になかったものもいろいろ開発したが、私たちは仕事の上で一つのイデオロギーを持っていた。そのころ電気屋と機械屋がはっきり遊離していて電気屋はなんでも電氣的に、機械屋はすべて機械で解決しがちだったのを、その中間をうまく縫って両方の特徴を生かした仕事をしようというのが根本の考え方だった。」

井深さんたちはこうした考え方に基づいて戦後現在のソニー株式会社の前身である東京通信工業株式会社を設立されました。名文として名高い同社の設立趣意書の中にも「…単に電気、機械等の形式的分類は避け、その両者を統合せるがごとき、他社の追従を絶対許さざる境地に独自の製品化を行う」と記されています（井深大『自由闊達にして愉快なる 私の履歴書』（日経ビジネス人文庫））。

異分野・他分野への理解に関する井深さんらのこうした考え方がなければ、数々の革新的な商品を作り出し名実ともにグローバル企業となったその後のソニーの発展はなかったのではないかと思います。

いま一つは、「オーナーシップ」ということです。世界最大のタイヤメーカーである株式会社ブリヂストンの元CEO荒川詔四さんは、「オーナーシップ（ownership）」について、「自分が担当する仕事に対する所有権をしっかりと握って離さないこと」、すなわち「自分の仕事の主導権を手放さないこと」と述べています。

企業等の活動のほとんど全ては組織的なものであり、担当者は上司・同僚・関係部署との組織的な対応に万全を期することが求められます。しかし、組織的な対応のために「自分の意思」を捨てると、「担当した仕事は迷走を続け、質の低いものにしかならない」、結局のところ、「自分の意思」がなければ、「子どもの使い」にしかならない…組織の歯車のなかでギリギリと押しつぶされることを恐れるならば、多少の風当たりはあったとしても、オーナーシップをしっかりと保持したほうがいい、…そんな若者のほうが、将来、大きく成長する」と荒川さんは説いています（『優れたリーダーはみな小心者である。』ダイヤモンド社）。

卒業生・修了生の皆さん、これからも「異分野・他分野への理解」を失わず、また、心のどこかに「オーナーシップ」を宿し、イノベーション（技術革新）の旗手となって行ってください。ご健勝とご活躍を祈念します。

卒業生の言葉

先輩の背中を追って

機械工学科 5年 合屋 佑哉

「高専って5年もあるのか…長いな…」そう思っていた入学当初から今にいたるまでの5年間、ほんとにあっという間でした。でもゆっくり振り返るとこの5年間は、後にも先にもない密度の濃い時間だったなと思います。特に、自分とはどういう人間なのか、を考える期間でした。久留米高専では多種多様かつ超個性的な人たちに会うことができました。クラスメイトに、先生、53期のみんな、所属していた軽音部・実行委員会の先輩や後輩……とにかく毎日が刺激的でした。しかし、「じゃあ自分にはどんな魅力があるのか？みんなに友達と思ってもらえてるのか？」と悩むようになりました。それはきっと、同級生がより魅力的になったり、後輩ができて先輩になったりして、「魅力的な人間でいなくちゃいけない」と背負いこんでしまったからだと思います。自分という人間がどういう人間なのか分からなくなりました。そのことを隠すために、表では変に見栄や虚勢をはる自分がいました。その悩みをモヤモヤと抱えたまま過ごしていました。しかし、5年生になった時くらいに、ようやく答えを出すことができたような気がしました。それは、僕は「普通の人」だということです。秀でた運動能力や頭脳があるわけでもない、特技もない。そのことを受け入れると、自分を大きく見せようとしたり、他人に必要以上に媚びたりすることがバカらしくなり、愚直で素直にしよう、と思えるようになりました。受け入れられるようになったのは自分を認めてくれた友達のおかげであり、間違いなく成長であると自分では感じています。また、そうなれたのも、悩んだ日々があり、それを支えてくれた友達がいたからです。結局僕が言いたいことは、僕はそんな友達を持ってよかった、そんな友達と苦楽を共にし青春できて本当によかった、ということです。おかげでとにかく楽しい5年間でした！(原稿を書いている今もクラスの友達とBBQをしています。これから温泉に行きます。)これからもこの関係が続けば、それは最高に幸せなことだと思います。最後に、ご指導いただいた教員の皆様、最強な53期生のみんな、優しい後輩たち、5年間通わせてくれた尊敬する両親には感謝の気持ちでいっぱいです、本当にありがとうございました。

では最後に……「高専健児、元気あるか??!!」

5年間を振り返って

電気電子工学科 5年 田邊 敦也

5年前、期待と不安を抱え、入学した日をつい最近あったことのように感じます。光陰矢の如しとはよく言ったもので、長いと思っていた5年という月日も、過ごしてみるとあっという間でした。卒業を目前に控えた今、この5年間を振り返ると様々な思い出がよみがえってきます。

私の高専生活はとても充実したものだったと思います。特に、寮での経験はかけがえのないものとなりました。私はそれまで集団生活の経験はあまりなく、上手くやっていたかという不安を抱えた寮生活の始まりだったことを覚えていますが。そんな不安もすぐに無くなり、多くの友達と出会い、今ではすっかり寮になじみました。楽しかったことばかりで、夜遅くまでカラオケしたこと、鍋をしたこと、その他色々、とても良い思い出です。

遊ぶばかりでなく勉強をするのにも寮に居てよかったと思うことがあります。毎回テストになるとみんなで集まって、数人が持っている情報をもとに、夜遅くまで勉強をしていました。時には一夜漬けして、やや高いテンションでテストを受けて寮に帰って寝てを繰り返していました。今思えば、毎日少しずつ勉強すれば良かったのですが、無事卒業までこぎ着けたので良しとします。勉強を教えてくれた友人たちには感謝してもしきれません。

もちろん大変だったこと、きつかったこともありました。その一つが体育祭の応援団です。低学年の頃は上手くできなくて、先輩に怒られるのが嫌で、練習の時期になると憂鬱な気分になり、辞めたいとばかり思っていました。しかし、学年が上がるにつれてやりがいを感じるようになり、5年を経た今となっては、大きな自信になっています。

卒業し、これからは共に過ごした仲間とは離れ、別々の人生を歩むこととなり、寂しく思います。しかし、ここで学んだことはこれからの私の人生に生きてくるものだ確信しています。5年前、不安を抱え新しい世界に飛び込み、多くのものを得た経験を胸に、社会に飛び込んでいく所存です。

最後になりましたが、電気電子工学科の先生方をはじめとする教職員の方々、筑水寮、級友に深く感謝申し上げます。私が5年間の充実した日々を送ることができたのも皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

卒業生の言葉

52人

制御情報工学科 5年 塩塚 大気

「52人」この数字は、私たち53期制御情報工学科の教室に机を並べた仲間の数です。の中には、自分の目標のため学校をやめ大学に行ったものや、一緒に入学したのに今は後輩の友達、夢を叶えるため海外へ留学したものや、53Sを上から下へ通り抜けていった方(本人に許可済み)などたくさんの方がいます。そんなたくさんの方々とこの学校で出会いました。

私は、この52人が非常に個性的であったと心から思います。もちろん、高専に通っている時点で多くの方がどこかおかしいというのは、高専内の空気に静かに充満しているところではありますが、その中でも53Sはやはり異質のように感じます。

個性的というのは、よく言えばの話で、悪く言えば協調性がないということです。学校行事に無頓着な人も多く、体育祭では、うちの学科の列が短いのははや通例となっています。他の学科の団結や熱量をうらやましいと感じることは5年間で何度もありました。しかし、長所と短所は表裏一体で、クラスメイトの多様性には本当に驚かされる毎日でした。

ミュージシャンにデザイナー、Youtuberやニコ生主、重課金者、みんなそれぞれに好きなことをもって、自分がやりたいことに対して本気な人たちでした。そして、お互いの好きなものを尊重しあえるクラスでした。中学では、その趣味を人とは違うからとバカにされたものも、ここでは個性としてのびのびとしていました。私は、自分が好きなものを好きということができ、それに没頭することができるのが、53S、ひいては久留米高専の長所だと5年間を過ごして感じています。

15歳から20歳という人生でとても密な時間をこの学校で過ごしました。まさに子供から大人になる大事な、大事な時間でした。正直、中学の自分の進路選択を恨んだこともありましたが、しかし、うちのクラスのミュージシャンは彼が作った曲の中でこう歌いました。

「きっと何も間違ってなんかないよ、僕らの日々」

当時1年生の私にここまで響いた歌はありませんでした。今でも私にとって大切な曲です。これから先、まだまだ未熟な私たちにはたくさんの試練が待ち受けているでしょう。しかし、ここで学んだことを武器に、久留米高専の卒業生という誇りをもって、胸を張って生きていきたいと思えます。

最後になりましたが、不出来な私たちをご指導くださった先生方、サポートくださった学生課の方々、その他久留米高専にかかわるすべての方々に深く感謝申し上げます。そして、支えてくれた家族にも本当に感謝しています。たくさんの方に助けていただいたおかげで今の私たちがいます。これからも、感謝を忘れずに力強く飛躍していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

5年間ありがとう

生物応用化学科 5年 山崎 夏実

高専生活もあと2年、あと1年と言っているうちに卒業式まで残りわずかとなりました。思い返せばあっという間で、今でも入学式の日を思い出します。「クラスのみんなと早く仲良くなれるかな…勉強はついていけるかな…」と、期待よりも不安が大きかった1日でした。

入学してすぐは誰も知らないクラスでみんな静かにお弁当を食べていました。夜須の研修合宿に行くまでは、静かで会話の少ないクラスだった気がします。私はクラスの誰も知らないなか、初めてクラスメイトに話しかけるのは緊張しました。しかし、思い切って話しかけてみると、気が合う子もいたり、意外な一面をもった子もいたり、多くの発見があり、友達もできました。これも、今では懐かしい思い出です。中学校とは大きく変わった環境に慣れるのには時間がかかりましたが、少しずつ学校生活にも慣れていき、友達も増えてからは毎日が充実していました。

高専祭や工場見学旅行、クラスマッチはもちろん、日常の友達との会話や出来事のすべてがこれからも一生残る思い出になりました。最近になって5年間の写真を見返すと、みんなの色々な変化に驚くとともにたくさんの記憶が蘇ってきました。休みの日に遊びに行ったり、休講を見つけてはご飯を食べに行ったり、行事のたびにクラス会をしたり、放課後に残ってみんなと話したり…数えきれない程の思い出があります。写真を見ながらこの5年間を振り返っていると、もうすぐ卒業するという事がとても寂しくなりました。

4月からは進学する人、就職する人、それぞれ別々の場所で新生活がスタートします。みんなと会えなくなるのは寂しいですが、高専に入学して、みんなと出会えて本当に良かったと思っています。

最後に、今までお世話になりました先生方、本当にありがとうございました。

そして、53期生化のみんな5年間ありがとうございました!!



卒業生の言葉

5年間を振り返って

材料工学科 5年 梶木屋 翔磨

長いようで短かった高専生活がもうじき終わりを迎えるようにしています。久留米高専で過ごした5年間を振り返ると、沢山の思い出が今蘇ってきます。5年材料工学科の代表として、これから卒業の言葉を述べさせていただきます。

平成25年4月、期待と不安が入り混じる中、私たちは久留米高専の材料工学科に入学しました。久留米高専は中学生の頃の私にとって憧れの学校であり、入学式の日に初めて実感がわき、その喜びを噛みしめたことを今でも覚えています。それと同時に新しいクラスメイトとも出会い、5年間一緒に過ごしていくのかと思うと、とても不思議な気持ちになりました。

入学してすぐに夜須研修があり、それを境に私たちはすっかり打ち解けることができたように感じました。先輩方からも色んなお話をしていただき、これからの学校生活に抱いていた不安が楽しみに変わっていきました。

学年が上がるにつれて専門の金属やセラミックスに関する科目や実験が増えてくると、内容につまずきながらも徐々に理解できるようになり、面白みを感じるようになりました。特に金属を強化する方法やそのメカニズムをナノやミクロのレベルで学んだ内容に面白みを感じました。実験では初めて自分で金属を研磨して顕微鏡で金属組織を見た時に、とても感動したのを覚えています。その他にも興味深い内容は数多くあり、私は材料工学という道を選んで正解だったと感じています。

5年生になると就職活動や大学受験も始まり、自分の進路に悩む時期もありました。私は就職すると決めて活動を始めましたが、周りのクラスメイトの進路が決まってくると、徐々に焦りや不安が募りましたが、多くの先生方に面接練習をしていただき、無事に私も内定をいただくことができました。多くのクラスメイトが進路について不安に感じていたと思いますが、時にはお互いを支え合いながら乗り越えることができました。

思い起こせば名残惜しいですが、これから私たちは久留米高専を卒業し、新しい人生を歩んでいきます。入学当初15歳だった私はもう20歳になり、社会という新たな世界に足を踏み入れようとしています。これから数多くの壁にぶつかるかと思いますが、材料工学科で学んだことを武器にして、また5年間ともに過ごした仲間のことを思い出して乗り越えていきたいと思っています。時には厳しく、時には優しく指導していただいた先生方、ともに助け合ってきたクラスメイトの皆さん、5年間本当にありがとうございました。

修了生の言葉

「懸命に今を生きる」

機械・電気システム工学専攻 2年 森崎 汰雄

専攻科まで含めた7年と言う時間は非常に長いもので、高専に入学したあの頃が昨日のようだと言えば流石に嘘になるでしょう。このような長い高専生活を振り返ると、はじめて赤点を取ったほろ苦い記憶や、レポートの再提出を申し付けられた甘酸っぱい記憶など、様々な思い出が蘇ってきます。思い出話も楽しいのですが、やはり卒業が迫った今、本稿では私が高専で学んだ「懸命に今を生きる」という信条についてお話させていただきます。

二年前、私はこの久留米高専専攻科に残ることを選択しました。この時、学業の面で思うような結果を出せていなかったことや、多くの友人が卒業してしまったなどということがあり、新生活への希望というよりは、漠然とした寂しさや焦りを感じていました。情けないことに、「この選択でよかったのだろうか？」というような根拠もない暗い気持ちを抱え、私の新生活は幕を開けたのです。

ところが、私のこの暗い気持ちはある2つの要因によりその後大きく変化していきます。まず一つ目は、交友関係です。高専に残ったことで、とても多くの後輩と仲良くなって頂くようになり、彼/彼女らのお陰で寂しさや孤独感を乗り越え、本当に賑やかで楽しい学校生活を送ることが出来ました。

二つ目の要因は大学院受験です。真剣に向き合い、自分にとって非常に魅力的な大学院を見つけることができ、なんとか合格することが出来ました。また、受験の話をするにあたって欠かせないのが後輩や友人、教職員方からの応援の言葉です。筑後川花火大会の音だけ聞きながらモスバーガーの喫煙室で電気回路を解いていたときなど、心が折れそうになったことは何度もありましたが、そのたびに皆様の応援を思い出して頑張ることが出来ました。

これらの体験を通して私の気持ちは段々と明るい方に向かっていき、やがて私は「間違いかも」と思っていた選択を、「正しかった」と思えるようになりました。

以上が、私が専攻科生活で得た経験です。このような経験から私は、結局のところ自分の生きる今が正しいか否かと言うのは、その後の行動で常に変化し続けるものなのではないかと思っています。そう考えると、人生における選択が正しかったのかどうか、それが確定するのは自らの命が終わる時だけだと思うのです。こんなことから私は、自分が歩んできたこれまでに良いものにするために「懸命に今を生きる」ことが大事なのではないか、そしてこの「今」の積み重ねが自分にとってより良い未来を切り開いていくのではないかと思うわけです。

修了生の言葉

工場見学旅行

高専生活～完～

物質工学専攻2年 一木 葉月

ある高専の先生に「せいぜい、やめないように頑張っ
ね」と、声をかけられた7年前の冬。当時の私は、「合格し
てすぐの人間に嫌味っぽいことを言わなくてもいいじゃな
いか」と思っていたのですが、高専生活を過ごしてみて、先
生の言葉が痛いほどわかりました。レポートやテストに追
われる日々…。勉強が嫌になり、逃げだしたくなることも
ありました。そんな中でも乗り越えられたのは、同じ境遇
の仲間がいてお互いに支えあえたからだと感じます。その
他にもクラスマッチ、高専祭、工場見学旅行などなど、友
達と過ごした日々はかけがえのないものとなりました。

あっという間だった5年間。卒業とともに多くの仲間が高
専から旅立ちましたが、私は専攻科に進学しました。

専攻科ではイベント事が一切ありません。本科がクラス
マッチで楽しそうにしている中の授業、疎外感のある高専
祭、1日のほとんどを実験に費やし、特定の2、3人と喋って
帰る、時には誰とも会わない、喋らない日もありました。
代わり映えのない生活に人恋しさは募るばかりで、改めて
友達の存在が大切なことに気づくことができました。

寂しさを感じながらも、この2年間は一瞬で過ぎていきま
した。というのも、1年では産業デザイン演習や創造工学実
験、インターンシップ、2年では就職活動や学会発表など、
専攻科研究を中心に毎日忙しかったからです。

中でも、特に印象に残っているのは創造工学実験です。
この授業は自らテーマを決めて研究を行っていきます。特
に、実験方法を考えることが難しく、先生方に助言を頂き
つつも、本科で学んだ知識を思い出しながら進めていきま
した。発表ができるような結果を残せたときは、とても達
成感がありました。

また、専攻科研究では本科での研究を継続して行ったの
で、より理解を深めることができました。初めて参加した
学会では、様々な分野の方と積極的にディスカッションを
行い、いただいたアイデアを後の研究に活かすことができ
ました。緊張しましたが、それ以上に得られたものは大き
く、とても有意義な時間を過ごせたと思います。

本科では基礎を学び、学んだことを応用するのが専攻科
であったように思います。7年間、いろんなことがありまし
たが、成し遂げられる力を身につけられたのは、指導して
くださった一般科目、生物応用化学科の先生方のおかげで
す。本当にありがとうございました。また、一緒に過ごし
てくれた手柴さん、井上君、古賀君、下川君にはとても、
とても感謝をしています。私にとってはこれが最後の学生
生活です。こんなに居心地がよく平和な生活はもう2度と訪
れないかもしれません。高専での思い出を胸に、春から社
会人としての人生を歩んでいきます。
サンキュー高専！フォーエバー高専！さらば私の穏やかな
日々。

思い出いっぱいの工場見学旅行

機械工学科4年 アメー

夏休みでのインターンシップ、夏休み明けの長い定期末
試験を終えて、私たち機械工学科は工場見学旅行として、9
月25日から9月29日に関東方面へ行きました。5日間では、
東京と横浜を中心に様々な工場や観光地を回りました。

工場見学旅行の初日、羽田空港到着すると、2年前の東京
日本語学校で過ごした楽しい日々を思い出しました。早速、
美味しい昼食を食べた後、浅草寺の周辺を散策して上野の
国立科学博物館を見学しに行きました。この博物館では、
地球館と日本館の2つの建物があり、様々な展示物を通し
て様々な近代科学について知ることができました。

二日目、いすゞプラザ藤沢では原寸大のエンジンの模型を
見て、車の設計から製造までの生産工程を見学しました。展
示物とその周辺環境のジオラマもよく出来ていて、小さい車
の模型が光りながら走っていました。東急電鉄長津田工場で
は、実際に走っている車両の整備の工程を見学しました。ク
レーンで車体を吊り上げて内部や車両の細かい部分を整備し、
車輪に割れなどがいないかを確認する機械を見学しました。長
く使った車輪は一度で取り替えるのではなく、車輪を削って
繰り返し使うことが分かりました。また、電車の自動で開く
ドアのチェックをしている工程を見て、電車の操縦桿を実際
に触らせて頂くなど、貴重な経験ができました。

三日目は、牧野フライス厚木事業所では、高精度の工作機
械用の軸の制作過程と飛行機の翼を削るための工作機械を見
学しました。高精度のものを組み立てる時に使われる、クリ
ーンルームという空気中のごみや塵がほとんどない部屋で作
業している方達や、1台何千万円もするたくさんの工作機械
を見て、とても圧倒されました。また、見学後には、高専出
身の方々に入社後の仕事内容についての質問にも答えて頂き
ました。その後、海洋研究開発機構では、しんかい6500をは
じめとした深海を調査するための調査艇を見学し、実際に深
海に物を沈めた時にどれくらいの圧力がかかるかを確認する
装置でブタメンのカップを用いて実験を行いました。

四日目の自主研修では、友達とJR山手線に乗って新宿、
秋葉原、渋谷を散策して、夜には以前1年間過ごした日本語
学校の後輩と一緒に夕食を食べに行きました。そして五日
目は、国会議事堂を見学して、福岡空港へ戻りました。

この5日間の短い時間で、高級なホテルや中華街の美味し
い食事や自主研修の時の散策など、2年前の1年間に負けない
くらいのたくさんの思い出を作ることができました。同級生
と一緒に貴重な時間を過ごすことができて楽しかったです。
工場見学では、普段見ているものが実際にどのように作られ
ているのかを見て色々なことを学びました。今回の工場見学
で体験できたことを今後の進路に生かせるように、同級生と
の学校生活を1日1日大切に過ごしていきたいです。



工場見学旅行

工場見学旅行

電気電子工学科 4 年 濱崎 壮磨

私たちは工場見学旅行で神奈川県にある3つの工場と、東京都にある東京工業大学を見学してきました。今回はそれぞれを見学した順に紹介したいと思います。

最初に見学したのは花王株式会社川崎工場でした。この工場では各種洗剤の製造、袋詰め、出荷までを一貫して行っており私たちも製品ができるまでを順を追って見学していく流れとなりました。とは言いましても流石に洗剤の調合の段階は見学させて頂けませんでしたので見学は袋詰め段階からのスタートとなりました。それでも広大な敷地に広がる機械の上を数多の製品が流れていく様子は壮観でした。この工場では洗剤の袋詰めはもちろんのこと、箱詰めから倉庫に移すところまで徹底した自動化が図られており、従業員が行うのは機器の保守点検及び不具合の対処が主であると聞いたときは技術の進歩を実感した瞬間でもありました。

次に行ったところは富士通株式会社でした。ここでまず見たのは富士通が出している様々な製品の展示物でした。私はその中で表情の検知技術を体感したり、リレー回路を用いた現役の計算機が動いている様子を見学したことが特に印象的でした。その後は一般の人ではまず立ち入ることができない回路設計の現場を視察させていただくことができ、非常に貴重な体験だったと思います。

工場の中で最後に見学したのは日産の川崎工場でした。この工場では主に各車両のエンジンを製造していました。エンジンは一見どの車でも一緒に見えますが、実は使用する部品なども全く違って、エンジンの種類に応じて従業員も組み方を変えていくそうです。また、多彩な部品を扱うため、部品の取り違えはあってはならないことなのでそれを防止するための工夫や手早く組み立てるための部品を供給する装置の工夫はどれもよく考えられていて印象的でした。

次に見学したのは東京工業大学でした。ここで見学したのはスーパーコンピューターのTSUBAMEです。今日ではスーパーコンピューターの処理速度の競争が激化していますが、ここにあるものは処理速度ではなく、環境性能で世界一を取ったことがあるコンピューターです。（もちろん処理速度においても国内有数の速さを誇ります）思っていたより狭い部屋にずらりと並んだ筐体も迫力がありましたが、個人的にはそれ以上に温度管理が徹底されていたところや床下を通る太い冷却用の管が印象に残りました。

4泊5日で行われた工場見学旅行でしたが、私たちの国の技術を垣間見ることができただけでなく、今後の自分の将来のビジョンを作る上でも参考になり、非常に有意義なひと時を過ごすことができたのではと思います。



工場見学旅行

制御情報工学科 4 年 石坂 伊織

高専生活の中で、最も大きなイベントと言っても過言ではないだろう。きっと、ほとんどの学生がこの旅行を楽しみにしている筈で、私もそのご多分に漏れず浮かれまくっていた。

私のクラスは、1日目と2日目が関西、3、4、5日目が東京という日程だった。旅行中、特に工場見学の際は、スーツに革靴という格好で歩き回る。しかし、9月の終わりと言ってもまだまだ残暑が厳しく、あまり着慣れていないのもあって、かなり窮屈で暑苦しかった。「心頭滅却すれば火もまた涼し」なんて言葉があるが、心頭滅却して火は涼しくなったとしても、残暑の中のスーツ姿が暑いことには変わりない。そんな慣れないスーツ姿で回った甲斐があって、工場見学はかなり勉強になった。というのも、普段は絶対に立ち入ることができない工場の内部で、実際に働いている方々の姿を間近で見ることができたからだ。企業のHPやパンフレットを見ただけでは分からない、「現場の空気」がそこにはあった。特に、私たち4年生にとっては、進路を決めるうえでかなり貴重な経験になったと思う。

さて、ここまで読んで、「もしかして工場見学旅行はそんなにエンジョイできないのではないかな？」と心配している下級生がいるかもしれない。しかし安心してほしい。私もクラスメイトもばっちりエンジョイしてきた。工場見学の合間に、清水寺や横浜中華街を観光したり、何より4日目の自由行動の日は朝から晩まで東京のグルメを食べ歩いた。築地市場の海鮮丼に始まり、ラーメン二郎や蒙古タンメン中本、夜には新大久保でチーズタッカルビに舌鼓を打つ。世界中で今、一番幸せなのは自分なのではないかと3分に1回くらいは考えたと思う。そして何より、ホテルでの時間が一番濃いものだった。毎夜、気心の知れた友人たちと部屋に集まって、騒ぎに騒いだ。近くのコンビニでジュースやお菓子を山ほど買って、日が明けるまでずっと。毎日学校で話しているはずの面子なのに、不思議と話題が途切れることはなかった。沈黙になることはなく、常に誰かが言葉を紡ぎ、他の誰かがそれを聞いて神妙な顔で頷いたり、笑ったり。きっと、もう二度と訪れない工場見学旅行という名の非日常を、誰しもが終わらせたくなかったのだと思う。

福岡空港からの帰り道、この5日間ですっかり着慣れた筈のスーツなのに、出発前よりも幾分か窮屈に感じた。それは、食べ歩きでたぬきのように膨れ上がった腹のせいなのかもしれないし、かけがえのない仲間と過ごして溢れそうになっている、思い出のせいなのかもしれない。



工場見学旅行

工場見学旅行

生物応用化学科 4 年 中村 光児

とても長い期末試験を切り抜けて、私たち生物応用化学科は、9月25日から29日にかけて大阪と神戸へ工場見学旅行に行きました。見学したのは、ダイキン工業、森永乳業、大日精化、第一三共プロファーマの4社です。

心が浮き立っていた旅行でしたが、初めてのスーツを着ると気持ちがキリッとなりました。それぞれの工場を見学すると、自分が想像していた職場の雰囲気や工場の仕様が実際とは大きく異なっていることに気が付きました。スケールアップされたプラントで大量生産したり、災害を意識して機械や装置を高い位置に設置したりするなど、初めて知ることが多く様々なことを学ぶことができました。特に印象に残っているのが、大日精化の方々の雰囲気です。社員の方々と一緒に昼食をとらせていただいた時に、笑顔で話しかけていただいたり、年配の方と若い方が楽しそうに話し合ったりしていて、良い雰囲気の職場だと感じました。また、久留米高専出身の方から、普段の生活や仕事について有意義なお話を聞くことができました。進路を考える私たちにとって、会社がどのような場で、「社会で働く」ということを感じる事ができた非常に良い機会となったと思います。

そして、工場見学旅行の1番の思い出は、クラスメイトと過ごした時間です。テストの鬱憤を晴らすかのように、姫路城や中華街の観光、難波散策を全力で楽しみました。宿泊先のホテルで、みんなとゲームしたり、食事をしたりして交わした何気ない会話の中で、友達の新たな一面を知ることができ、今まで以上に仲が深まったと思います。

こうして過ごした5日間は、自分の将来を決めていくうえで大変貴重な機会となりました。それだけでなく、よりクラスの仲が深まり、残りの学校生活を楽しく過ごすきっかけになったと思います。また、工場見学旅行を企画し運営していただいた旅行会社の方々や先生方、そして見学を受け入れてくださった会社の方々に感謝したいと思います。



工場見学旅行を終えて

材料工学科 4 年 根北 翔

私たち材料工学科4年生は、9月25日から5日間にわたって関東地区へ工場見学旅行に行きました。私たちはJAL機体整備場、JX金属株式会社 倉見工場、日本精工株式会社 藤沢工場の3つの工場、ならびにJAXA筑波宇宙センターや東芝未来科学館などの施設を見学させていただきました。生活するために欠かせない工業製品の生産工程を材料工学的な観点で視察したり、最先端の科学技術を体験したり、宇宙ステーションについて学んだりして非常に充実した5日間になりました。

JX金属株式会社 倉見工場では、銅を始めとした金属材料の精錬・加工工程を見せていただきました。そこで最も印象に残っているのは精密圧延という工程です。ここでは、“冷間圧延と焼鈍を数回にわたって行い、要求された厚さに処理する”という銅製品の加工の様子を工場内で見学させていただきました。熱処理は材料工学において最も基本的かつ重要なプロセスです。私たちが学んでいる熱処理が実際に工場で応用されていることを知り、改めて材料工学の重要性を認識することができました。また座学では体験出来ないような熱処理時の熱気や金属の匂いを感じることもでき、とても貴重な経験になりました。

日本精工株式会社 藤沢工場では、世界的シェアを誇るベアリングの生産工程や新式の製品の見学をさせていただきました。ここでは、製品の耐久性・機能向上のために多彩な材料を活用する技術を確認していることを学びました。この工場では、久留米高専の卒業生も多く働いていたのでとても働きやすい環境だと思いました。

工場見学旅行を通して工場等の現場を見て、あるいは最先端の技術に触れて、様々なものについて学び、考えることができました。またクラス全員での旅行ということもあり、思い出に残る旅行になりました。この旅行で私たちは、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。この経験や思い出を忘れずに残りの学生生活を送っていきたいと思います。



専攻科インターンシップ

株式会社ワイビーエムでのインターンシップ
機械・電気システム工学専攻1年 寺田 捷人

私は今回、株式会社ワイビーエムでインターンシップを行いました。ワイビーエムは、地元久留米の企業で、医療機関向けのレセコン（診療報酬明細書を作成するコンピュータ）や各種サーバーの構築を行っています。私がワイビーエムでインターンシップ先を選んだ理由としては、ソフトウェアの分野に興味があり、実際の仕事はどのようなものなのか、自分の知識や能力はどのくらい実際の仕事で役立つのか、といったことを経験してみたかったからです。

私が今回のインターンシップで主に取り組んだ業務は2つあります。1つ目は「SEの方の仕事の見学」です。インターンシップ2日目には長崎の企業のシステム構築の業務に同行させていただきました。その際SEの方に実際に行う業務の内容について説明を聞かせてもらいましたが、なかなか理解できないことが多く、SEの方の専門的知識・技術に感服しました。限られた時間での迅速な作業の見学及び、簡単な作業を手伝わせてもらうなど、学校の授業では経験できないような貴重な経験をさせてもらいました。

2つ目は「顧客向けホームページの修正」です。今回は1Rというレセコンを使用する企業向けのホームページの改善要望の修正を行いました。ホームページに使用されていたプログラミング言語はPHPで、私が今まで触れたことのない言語だったため始めは戸惑いました。しかし、学習を進めていくにつれ、自分が今までに学習した他の言語の知識が役立つ部分も多くあり、学校での勉強も無駄にならないことを実感しました。修正項目によっては丸一日以上の時間を要するものもありましたが、粘り強く挑戦を続け、最後には全ての項目を改善することが出来ました。全ての作業を終えた際には大きな達成感を得ることができ、仕事の責任を果たす喜びを少しは感じられたように思います。

今回のインターンシップを通して、自分にはSEの方の説明を聞いても理解できないことが多く、まだまだ知識や技術が足りないということを痛感しました。その一方で、今までの勉強が役立つところもあり、普段の学習は無駄にならないと感じました。これからの就職活動に今回の経験を生かしていきたいと思います。

専攻科インターンシップを終えて
物質工学専攻1年 向井 優生

私は、伊藤機工株式会社で約2週間のインターンシップを経験させて頂きました。伊藤機工株式会社は愛知県東海市に本社工場を構える鋳造品・機械メーカーであり、鋳造事業部、機械事業部、特品事業部の三事業部で構成されています。今回私は、特品事業部にて取り扱うショットピーニング用金属ビーズの耐久性評価に携わりました。



ショットピーニングとは噴射加工の一種であり、投射材と呼ばれるビーズを高速で相手材表面に衝突させることで加工硬化や残留応力を付与する加工法です。これを行うことで金属材料の疲労強度や耐摩耗性などの向上が期待でき、自動車部品や航空機部品など様々な部品に広く適用されている技術です。

伊藤機工株式会社では、金属からガラスに至るまで多種多様なビーズを取り扱っています。その中でショットピーニング用金属ビーズの主要製品は、スチール製およびステンレス製の二つとなります。このうちスチールビーズは高い硬度を有する反面、耐食性に劣るため、ショットピーニング後の相手材に微細なビーズ片が残留し、そこから錆が発生する「もらい錆」という事例が報告されています。そこで、伊藤機工株式会社では高い硬度と耐食性を有する金属ビーズの作製を目指し、二相ステンレス鋼製ビーズが開発されました。今回のインターンシップでは、この二相ステンレス鋼ビーズの耐久性評価を実施しました。

私は専攻科で主に金属材料についての学習をしています。金属ビーズという普段触れる機会の少ない製品の評価に携わらせて頂いたことは非常に良い経験になったと思います。評価したビーズは最も小さいもので数十 μm と非常に小さい製品であったためその評価方法も特殊なものが多く、非常に勉強になりました。また、ショットピーニングという技術自体は高専で学習していましたが、実際に製品を設計するためには様々な問題を考慮する必要があることを知り、ただ知識を身に付けるだけでなく実際に適用されるところまで考えながら学んでいくことが重要だと感じました。

また、今回私のメンターとして御指導して下さい方が久留米高専のOBであったため、高専卒の強みや高専での学習の重要性についてなど技術的な内容以外にも様々なお話を頂き、非常に充実した時間を過ごすことが出来ました。今回のインターンシップで学んだことを今後の学生生活で活かしていきたいと思っています。

最後に、今回インターンシップを受け入れて下さった伊藤機工株式会社の皆様およびインターンシップを実施するにあたって援助を頂いた後援会に厚く御礼申し上げます。

退職教職員からの言葉

久留米高専を去るにあたって思うこと
材料システム工学科教授 馬越 幹男

昭和56年4月、28歳で久留米高専着任と同時に、いきなり3年生の学級担任になりました。初めての保護者懇談会の際、「若いだけですが、頑張ります。」と申し上げたところ、「若いだけじゃダメよね。」と囁かれたことをついこの間のこのように思い出します。あれから37年間、教育について学んでいたわけでもなく、何とかしなくては

という思いだけで、手探り、我流で学生に接してきました。それでも、当初は乏しい経験と思い上がりで恥ずかしげもなく学生に大物を言っていました。首尾よく事が運ぶはずがなく数々の失敗を重ねて、特に30歳半ばで得体が知れない大きな挫折に直面し途方に暮れてしまいました。多分2年以上苦しみました。久留米高専の周囲の教職員の皆さんや学生に囲まれて、何とか過ごして来られたのだと思います。と言いますか、同情も批判も聞こえてきましたが、私を受け入れてくれる久留米高専という土壌があったからです。先生方や学生との対話や本を読む時間があり、私の乏しい教員としての経験や無知を補って余りあるものを得たと実感したものです。それは、ただそれだけかと言われそうですが、気持ちを平らかにして人の話を真剣に聞くということです。

世の中は時とともにダイナミックに変化していますので、経験だけで教育に通用することはなく、日々答えのない課題に直面してアクティブラーニングに取り組んでいるようなものですが、場が必要で少し時間がかかります。何事にしても段々と窮屈な状況になってきましたが、最近でも学生の就職面接の練習をしています。多くの学生が久留米高専の校風を自由な校風と捉えています。久留米高専の伝統が息づいているのだと思います。私が何とか無事に久留米高専を去ることができるのも、そのお蔭だと深く感謝しています。また、これからも学生の皆さん一人一人が久留米高専で研鑽を積んでいくことが、伝統が繋がって新しくなっていくのだと思います。

人事交流を終えるにあたって
一般科目(理科系)教授 酒井 健

昨年4月に高専間人事交流のため、有明高専から異動してきました。授業やクラブ活動、研究などを通じて、久留米高専の学生さんや教職員の方々とたくさん交流することができ、充実した日々を過ごすことができました。これも校長先生や一般科目の先生方をはじめ、多くの教職員の方々のご支援があったからです。ここに深く感謝申し上げます。

さて、この原稿を書いている今日、平昌オリンピック真った大で大変盛り上がっています。特にスピードスケート女子500メートルで小平奈緒選手が悲願の金メダルを獲得しました。小平選手のインタビューや記者会見、新聞記事などを見聞きして感銘を受けたので紹介させていただきます。

小平選手は、前回のソチ五輪でメダル有力候補と言われつつも果たせなかったその屈辱を胸に真っ先に取り組んだのが「環境の変化」だそうです。日本ではコーチに頼り切る「ぬるま湯」にたかっていて、これを脱するためにスケート王国・オランダに単身渡り、滞在中の2年間で大きく成長したようです。「滑りの正解は一つではなかった」と語っていた小平選手の言葉に凝縮されるように、それまでの練習や強化法が絶対的なものではないということです。まさに、「価値観の転換」によって眠っていた潜在力がまさに開花したのです。このことを知ったとき、私はとても感銘を受けました。

実は私も今回の人事交流を希望した理由の1つが「ぬるま湯」を脱するためのきっかけ作りであり、自分自身の「価値観の転換」を図るためです。世界の国々にそれぞれ特徴的な文化や風習があるように、同じ「高専」でも久留米と有明はそれぞれに異なる特徴や価値観があるのを感じました。私は今後それらの価値観に固執せず、新しい教育・研究環境を創生するために、人事交流の経験を活かしていきたいと思っています。

最後になりますが、この1年間、皆様には本当に世話になりました。今後、久留米高専の益々のご発展を心より願っております。

人事交流を終えて
電気電子工学科教授 掛橋 英典

人事交流でお世話になりました掛橋です。昨年7月の九州北部豪雨で被災された学生ならびに保護者のみなさまに謹んでお見舞い申し上げます。少年時代に釣りや川遊びに夢中になった馴染みの深い筑後川ではありますが、土手近くまでの水位で押し寄せてくる膨大な量の濁流を目の当たりにして自然の脅威を身を持って感じるとともに被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。さて、久留米高専でのこの一年間微力ながら3～5年生、専攻科1年生を対象に講義、実験、卒研などを担当し学生諸君とともに学んできました。真面目で勤勉、スマートな印象の学生が多く、将来を担う人材としておおいに期待されるところです。企業出身の教員として敢えて申し上げますと、もっとコミュニケーション力やPR力を身につけて欲しいと思います。対人能力を磨くことによりさらに大きく成長し、組織や社会を影響力をもって牽引するリーダーとして活躍されることを強く願っています。発表会などの機会を積極的にとらえて能力向上に努めて欲しいと思います。授業以外では、サッカー部引率、寮務委員会活動、体験入学での展示や久留米市主催の親子参加の啓蒙活動、高専祭の竹取作業など数々の行事、催しものに参加できないへん良い経験をしたいと思っています。校長はじめ教職員の方々にはご指導いただきありがとうございました。新年度から派遣元の津山高専に戻りますが、この一年で得た経験や人とのつながりをもとにさらに広い視点で教育に携わっていければと思っています。最後になりましたが、学生諸君、教職員のみなさまのご活躍、ご健勝と久留米高専のますますの発展を祈念いたします。重ねて御礼申し上げます。

転職するので振り返ってみた
制御情報工学科准教授 熊丸 憲男

平成6年に久留米高専に着任以来24年間の勤務を続けてきましたが、この度、縁あって母校である福岡大学のものづくりセンターへ転職することになりました。思えば、色々な方にお世話になって今があります。

しかし、よく考えてみれば他の方にお世話になってばかりの人生、悪い言葉で言いかえれば流されっぱなしの人生だったと思います。「あんたは理系」という親の言葉で工学部へ進学。大学院時代に「教員免許をとらないか」との友人の誘いで教員免許の取得を始めて、「工業高校の教師が不足しているから受験して欲しい」と先生に言われてそのまま受験。無事合格したものの、学科の教授から「久留米高専の募集が出ているぞ。おまえ、家が近いからいいだろう」と言われて、久留米高専も受験してそのまま着任。

久留米高専に着任してから、「手伝って」との故高橋教授の一言でロボコンを開始、同じく「手伝って」の一言でソーラーボートも開始。ああ、そういえば野球部も「やってね」で始めて、「お願いね」との小学校時代の恩師からの言葉で出前授業も始めました。非常勤をはじめとする大学からの頼まれごとも、基本的には全部受けてきましたし、私生活でも、(今では命令になっていますが)嫁の頼みも断っていません。今回の転職でも、博士論文でお世話になった先生からは「来てくれてうれしい」と言われていますので、すぐに何か頼まれるのではないかと思います。就職にあたって「頼まれたらできるだけ断らない」と決めたにしても、少々やりすぎだった気もします。

ただ、今さら生き方も変えられませんが、変える気もありませんので、そういう一生かなと思っています。学生達には教えたことが山ほど残っていますし、今までお世話になった教員や事務職員の方への恩返しに足りていないと思いますが、春からは新しい職場で頑張っていきたいと思っています。本当に、長い間ありがとうございました。

退職教職員からの言葉

3年間ありがとうございました。

総務課用度係長 星野 哲也



平成27年4月から3年間総務課用度係で勤務させていただきました。

私は旧朝倉町（現在の朝倉市）の出身で、本校が歴史と伝統のある学校であることを中学生の時から知っていましたが、自身が事務職員として勤務することになるとは夢にも思いませんでした。仕事の引き継ぎで初めて本校の敷地に足を踏み入れたときのことは今でも鮮明に覚えています。

この3年間、ご迷惑をおかけしたことも多々ありましたが、周りの皆様に助けていただいたからこそ、今日を迎えられたと実感しております。

本校で経験しましたことを今後に生かしていきたいと考えております。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

新任教職員紹介

新任教職員紹介



佐々木大輔

所 属 材料システム工学科

職 名 助教

採用日 平成29年10月1日

前 職 石川工業高等専門学校
機械工学科 助教

抱 負 2018年2月現在、本校に赴任して約4か月が経過しました。前職は機械工学に関する教育・研究が主事でありました。この度、材料システム工学科（旧材料工学科）で一翼を担うこととなり、活動の幅が大きく広がることを楽しみにしております。久留米高専は学生の失敗に対し、様々な面から、寛容な学校であると思います。学生の皆さんは若く、親御さん、地域の方々、そして久留米高専の教職員の方々により守られています。これらのことは、挑戦して失敗できる機会に恵まれていることを、示しています。この貴重な期間を十分に味わいつくしてください。その経験が皆さんの力になると思います。また、皆さんと沢山の挑戦と失敗ができる環境に身を置けたことは、私にとって大変幸運なことです。挑戦と失敗の先にある各々の成功に向かってともに歩んでいきましょう。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

趣 味 剣道、マンドリン演奏（年2回演奏会）、娘の遊び相手、ゲストハウスでの宿泊、英会話



山崎 幸子

所 属 総務課 総務係

職 名 事務補佐員

採用日 平成30年2月1日

前 職 九州大学筑紫地区教務課
教務係

抱 負 2月より総務課総務係に採用となりました山崎です。約5年ぶりの久留米高専ですが、再びこちらで働けることを大変嬉しく思います。以前とは色々と変わっており、戸惑うことも多いのですが、早く業務に慣れてみなさんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

趣 味 グルメスポット巡り、サガン鳥栖観戦、ガーデニング

高専祭を終えて

高専祭を終えて

高専祭実行委員会 委員長
機械工学科 4年 田中 曉

11月2日(木)に前夜祭、3日(金)に文化祭を無時開催することができました。今回の前夜祭、文化祭は共に、例年の1.5倍以上の方々に来ていただくことができました。ステージに出演していただいた皆さんや出店・展示をしていただいた団体の皆さん、神輿行列に参加していただいた学生の皆さんのご参加とご協力に大変 感謝しております。また、その他にもご協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。

今年度 我々実行委員会は、昨年度以降からの様々な問題の改善に取り組みました。それに伴い、たくさんの方々にご協力をいただきました。本当にありがとうございました。しかし、まだまだ改善しなければならないところはたくさんあります。今年度できなかったことの反省も含めて来年度以降への引継ぎをしっかりと行います

高専祭を開催するまでに我々は、時には衝突しながらも協力して何とか準備を進めてきました。高専祭開催までに費やした時間と労力は計り知れません。我々実行委員会の仕事はよく知られていないことが大半であると思いますが、意外と大変です。人によっては、学業を犠牲にしてまで実行委員会の仕事に取り組んでいる人もいます。そこまでして取り組んだことが一つ形になったというのは非常に感慨深いものでありました。

高専祭を作っているのは実行委員会だけではありません。これから、さらに高専祭を盛り上げていく為には久留米高専の学生や教職員の皆さま、保護者の皆さまの協力が必要不可欠です。来年度以降の高専祭もよろしくお願いいたします。

これからの高専祭に大いに期待しています。ありがとうございました。



体育祭を終えて

体育祭を終えて

体育祭実行委員会委員長
制御情報工学科5年 甲斐田 新乃輔

11月5日(日)、第52回体育祭が開催されました。無事天候にも恵まれて、日曜日だったということもあり例年にないくらい大勢の保護者の方が見えられました。ご来場頂いた方々、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、久留米高専の体育祭は他に類を見ないくらい超個性的ですよ。もはや体育祭の固定概念を覆すレベルです。このようなスタイルは久留米高専の自由でのびのびとした校風があってこそ生まれたものだと思います。長きにわたり築き上げられた伝統ある体育祭は久留米高専を象徴する文化の1つと言ってもいいのではないのでしょうか。勝ち負けもつきませんが、久留米高専生全員が一体となって盛り上がるというのは本当に素晴らしい文化だと思います。このような体育祭で委員長を務めさせて頂けたことは生涯僕の財産であり宝物です。先代から引き継ぎ、自分たちが創り上げたものを次の世代にもしっかりと託し、更なる進化を遂げていってほしいと思います。

委員長を務めさせて頂いた僕ですが、実をいうと昔からあまり表立って目立つタイプではなかったので、まさか体育祭の委員長となって学生皆の前で高専健児を披露し今こうして高専通信を書くことになるとは入学当初思いもしませんでした。しかし今までを振り返ってみると、久留米高専という環境の中で沢山の友達や先輩後輩、教職員の方々と出会い、ふれあってきて自分自身一回りも二回りも成長することができたと思います。本当にあっという間な5年間でしたが、僕にとってはかけがえのない5年間です。入学した頃に戻りたいな。後輩の皆さん、”レポートだるい〜”とか”テストきつい〜”などと言うばかりでなく、後で後悔しないように日々日常を謳歌してください。今しかできないこともたくさんあると思います。もちろん、勉強することも大事ですよ。

最後になりますが人間、一人では生きていけないんだなとこの5年間常々感じました。僕も委員会、学校生活、いつも周りの人々に助けられてばかりでした。お世話になった学生、教職員、保護者の皆様、心から敬意と感謝を表したいと思います。本当にありがとうございました。



予餞会

予餞会

予餞会実行委員長
機械工学科4年 田中 拓也

今年度も1月に予餞会を開催することが出来ました。ステージでは、5つのバンド出演に加えて来場者参加型の「三種の珍味」、昨年度から行っている5年生コンテスト、5年生へ向けたビデオレター等を行い、会場は大いに盛り上がっていました。

しかし、今回の予餞会運営にあたって感じたのは関心と予餞会の知名度の低さです。これには我々実行委員の広報活動の不足、さらに学生側も学校行事に参加しようという意思が不足しているのではないかと思います。近年毎年のように行っているにも関わらず予餞会の存在自体を知らない学生、はなから行く気のない学生、知っている人が出演しないから行かない学生など、様々な学生を目にしました。

私が思うに学校行事を成り立たせるためには、運営と参加者がタッグを組む必要があります。参加者とは出演者と来場者の方々です。運営がきちんと仕事をしなければ行事が成り立たないのは当然ですが、来場者が少なかったり、出演者が偏っていたりしても行事は成り立たないのです。みなさんには1度騙されたと思って会場に足を運んでいただきたいです。そして恥を捨てて、ステージを盛り上げてくれている同じ学校の学生の輪に入って欲しいと思います。特に次期5年生は、担任の先生方からのメッセージや懐かしい写真のビデオレターや、新生活で使える景品など、みなさんが主役となるイベントです。ぜひ参加のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、予餞会を運営するうへでご支援いただいた先生方並びに学生課職員の皆さま、出演していただいた皆さま、当日来場していただいた多くの皆さま、そして準備から片付けまで素晴らしい働きをしてくれた実行委員のみなさんに感謝の意を表します。そして、様々な学校行事が来年度以降より一層盛り上がることを切に願っています。



寮行事

寮の行事報告

寮生会広報委員長 高石 昂汰

冬の寮祭

12月9日（土曜日）、冬の寮祭が開催されました。春の寮祭とは違い、午前中は寮生による餅つきが行われ、参加した下級生や留学生は慣れない手つきで餅つきを楽しんでいました。午後からは近くのボウリング場でボウリング大会が行われ、楽しく汗を流し、スコア上位者には商品が与えられました。ボウリングで楽しんだ後には、寮に戻り夕方からバーベキューが行われました。春の寮祭の時よりも一年生と上級生の距離が縮まったように感じられ、良い雰囲気での寮祭となりました。



成人式

1月10日（水曜日）17時45分より学生寮食堂にて成人式が行われ、今年成人を迎えられた新成人の方々を寮生全員でお祝いしました。寮生代表として、現寮長である中川和君（材料システム工学科4年）が祝辞を述べ、新成人であり、前年度寮長の合屋佑哉君（機械工学科5年）が祝辞を述べました。小田幹雄寮務主事から新成人に向け、お祝いと激励の言葉が述べられた後、新成人を交えた寮生全員でいつもより豪華な食事を楽しみました。

また、成人式後には来年度の寮長を決める寮生総会があり、寮長候補の三人の中から寮生全員による選挙により、来年度の寮長が決められました。選挙の結果、新寮長は國武宙衛君（材料システム工学科3年）に決まりました。来年は寮がますますよくなるように期待したいです。



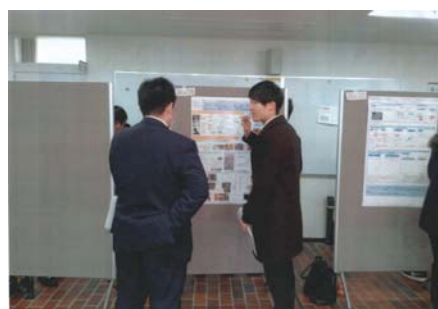
シンポジウムに参加して

先進的技術に関するシンポジウム
（豊橋技科大主催）に参加して

物質工学専攻1年 富安 範行

豊橋技術科学大学との高専連携教育研究プロジェクトの進捗状況報告会である「先進的技術に関するシンポジウム（平成29年12月26日開催）」に参加させていただき、優秀プレゼンテーション賞をいただくことができました。私の所属する生物応用化学科の松山研究室では、超臨界流体を用いたナノレベルの微細な構造を有する複合材料の製造に関する研究を実施しており、それらの研究課題の一つである「超臨界処理により創成された新規構造体"セルロースコットンキャンディーCCC"の実用化」について研究発表する機会をいただきました。セルロースコットンキャンディーCCCは、最近話題のセルロースナノファイバーCNFとナノ粒子の複合材料であり、超臨界流体乾燥処理を施すことで、膨潤性と湿潤性について工学的にユニークな特徴を有しています。現在、CCCの実用化を達成するために、企業と共同で生物応用化学科の中嶋裕之教授、渡邊勝宏准教授、中島めぐみ助教のご指導もいただきながら、抗菌・抗カビや触媒担体としての機能性評価を行っています。企業との共同研究を通して社会のニーズがどのようなところにあり、自分の担当している研究が実際に実用化されるには、たくさんの問題点を解決することが必要であることを痛感しています。

また、今回のシンポジウムに参加させていただくことで、交流機会の少ない他高専の学生とも研究活動に関する意見交換ができ、いい刺激を得ることができました。さらに、発表会にて専門分野の異なる多くの先生方からもご質問や討論をさせていただくことで、いつもとは違う観点から自分自身の研究に対する立ち位置や研究の問題点を再認識できました。今回のシンポジウムを通して、新たな課題や考え方を認識することで、研究活動に関するエネルギーをいただけたように感じております。最後に、今回の発表機会を与えていただきました豊橋技術科学大学の武藤浩行教授に厚くお礼申し上げます。



各種コンテスト優秀者：高専体育大会優秀者

全国高専体育大会二連覇報告

久留米高専バレーボール部（女子）平嶋 莉奈

私達女子バレー部は、平成29年8月に東京都で開催された全国大会へ出場しました。

久留米高専女子バレー部にとっては、平成28年に引き続き2度目の挑戦でした。前回とは異なり、優勝校としての参加だったので、今回の大会ではどのチームからも研究分析されており、苦しい試合展開になることがとても多かったです。決勝リーグ第1試合の対鶴岡高専の試合では、デュースになった末のセット獲得、最終戦の対松江高専の試合では3セット目までもつれ込むなど、厳しい戦いの連続でした。それでも、1年間チームの目標としてきた「全国大会2連覇」を達成するために、チームの意識を集め戦いました。最後には久留米高専の最大の武器である攻撃力で押し切り、優勝という成果を収め、2連覇の目標を達成することができました。

私は今大会で引退です。今は新しいチームが始動し、久留米で開催される来年度の全国大会での優勝を目指して練習に励んでいます。これからも女子バレー部の応援をよろしくお願いします。



九州沖縄地区高専体育大会二連覇報告

久留米高専バレーボール部（女子）森田 真帆

私達は、平成29年7月15・16日に佐世保で開催された九州大会で2連覇を達成しました。

九州沖縄地区女子バレーボールの高専大会は、優勝校のみが全国大会へ進むことができます。そのため、全国大会2連覇を狙う私達は、決して九州大会で負けるわけにはいきませんでした。昨年度に接戦の末優勝したので、今回の大会は、簡単には勝てないと予想されました。また、故障者も多く、不安は大きかったです。しかし、応援してくれる友達や保護者、OB・OGの方々から、様々な形でたくさんの支援を受け、練習やミーティングを重ねるうちに、全国大会への思いは強くなっていきました。試合では、その思いを持って戦い、最後まで勝ち抜くことができました。この優勝は、決して自分たちだけの力ではなく、たくさんの方が私達を支えてくださったおかげだと思います。このような恵まれた環境でバレーができる感謝を忘れず、これからも、全国3連覇という目標に向かってみんなで頑張っていきます。

全国高専体育大会準優勝報告

久留米高専バレーボール部（男子）高木 龍司

僕たち男子バレーボール部は九州沖縄地区高専大会で優勝し、その後進出した全国高専大会では準優勝することができました。

予選リーグでは、前回優勝の徳山高専と対戦しましたが、辛くもこれを倒し、決勝トーナメントに残ることができました。準決勝では茨城高専にストレートで勝利したものの、決勝では松江高専と接戦の末、惜しくも優勝を逃しました。悔しい思いでいっぱいでしたが、全国2位というこの結果は次の高専体育大会へ向けての大きな自信とやる気になったのではないかと思います。

現在5年生の部員は僕のみで、部長としてしっかりやっていけるか不安でいっぱいでした。しかし、練習メニューや試合に出るメンバーを決めるときなどに、皆がはっきりと意見を言ってくれたので、良いチームができました。

他の部活動のみなさん、日頃から我々バレー部に体育館を使わせて下さりありがとうございます。また、保護者の方々にはたくさんの支援や協力をさせていただきとても感謝しています。皆さんのおかげでしっかりと練習ができたからこそ、今回の結果に繋がったのだと思います。

あっという間の5年間でした。この間、たくさんの仲間たち、そして先生方に出会って自分は成長することができたのだと、とても感謝しています。

来年の全国高専大会は久留米で開催されます。持ち前の明るさと元気、そしてチーム力を活かして、今度こそ全国高専大会で優勝をしてほしいと願っています。



九州沖縄地区高専体育大会三連覇報告

久留米高専バレーボール部（男子）原 圭佑

私たち久留米高専男子バレーボール部は、平成29年7月末に行われた九州沖縄地区高専大会で優勝することが出来ました。

この大会では二連覇を果たしており、全国大会での制覇も目指していましたが、昨年度は優勝候補のチームと対戦し、あと一歩及ばずストレートで負けてしまいました。この悔しい思いから、今年は全国優勝を目標に練習に励んできました。そのような私たちの姿を知った保護者やOBの方々が、応援のメッセージや寄付などを送ってくださいました。また、友人たちもいつもバレー部の活動を応援し、協力してくれました。私たちが久留米高専の代表として、もっと頑張ろうと気持ちを高めることができたのは、こうしたご支援のおかげです。

全国大会に出場するには九州沖縄地区高専大会で優勝することが絶対条件です。それがプレッシャーではありましたが、念願が叶い、三連覇することが出来ました。この勝利は、決して私たち男子バレーボール部員だけのものではなく、見守って下さったすべてのの方々のものであると感謝しています。

応援してくださった方々、本当にありがとうございました。

各種コンテスト優秀者：高専体育大会優秀者

「第9回 坊ちゃん科学賞
研究論文コンテスト(高校部門)」入賞題名「円周率 π の近似式」

制御情報工学科2年 川添 裕功

直径1の円の円周の長さは π であり、半径1の円の面積も π である。これをもとに円周率 π の近似式

$$C(n) = \frac{4n}{3} \sin \frac{\pi}{n} - \frac{n}{6} \sin \frac{2\pi}{n} \text{ を発見した。例えば}$$

$$C(360) = 3.14159265298240 \dots \text{ となって、小数第8位まで}$$

の値と一致する。さらに、 $\sin x$ のマクローリン展開から、

$$D(n) = cn \sin \frac{4\pi}{3} - dn \sin \frac{b\pi}{n} \text{ (a,b,c,d は正の実数)}$$

という近似式を発見した。例えば、 $a=1/2, b=1$ とすると

$$D(360) = 3.14159265355184 \dots$$

より小数第10位まで一致する。

円周率 π は重要で興味深い数なので今後も研究を続けたいと思う。

題名「致死遺伝子の数学的研究」

生物応用化学科3年 田中 佑磨、山根 奏太郎

「致死遺伝子」とは組み合わせると個体が死んでしまう遺伝子のことである。死ぬための遺伝子を持つのは何故だろうか、これに興味を持ち数学的に研究した。ハツカネズミの遺伝子は黄色が灰色よりも優勢であるが、黄色が組み合わせるとネズミが死んでしまう。数学的研究により、ネズミは殆んど灰色になることを証明することができた。また、致死遺伝子が種全体へ利益をもたらすことも分かった。受賞をきっかけに、自分が将来したい事への目標を立てることができた。研究の成果を、今後の研究へ発展させていきたい。



表彰式にて 左から、松田教授、川添さん、山根さん、田中さん



表彰状…川添裕功



表彰状…田中佑磨、山根奏太郎

NRI学生小論文コンテスト2017
特別審査員賞受賞

機械工学科2年 吉田 亮史

私は今回、野村総合研究所(NRI)が主催するNRI学生小論文コンテストで特別審査委員賞を受賞しました。去る12月23日、東京のNRI本社にて最終審査会と表彰式・祝賀会が開かれました(コンテストの詳細は<https://www.nri.com/jp/event/contest/>をご覧ください)。

私がこのコンテストに応募したのは、そのテーマのスケールの大きさに触発されたからです。今回は『地方の課題をイノベーションで解決する』でした。つまり、社会・教育・産業・技術など分野を問わず、自由な発想で提案できます。

もちろん、私は技術について書きました。海に囲まれた日本らしい災害支援ツールとして、いつでも、どこでも、何度でも使えるユニット港湾“パズル港”の提案です。

私は、私だから書ける私らしい論文を目指しました。最も苦労したのは、専門性を備えながら、誰にでも理解される論文にすることでした。今回の参加を通して、自分の考えを分かりやすく、ロジカルにまとめる力が付いたと感じています。

自分らしさを論文で表現し、発表することは非常に面白いことです。さらに、それが認められ、評価されることはとても嬉しいことです。

皆さんもNRI学生小論文コンテストに挑戦しませんか。



各種コンテスト優秀者：高専体育大会優秀者

第52回全国高等専門学校体育大会(夏季)の主な成績
(8月18日～8月27日)

バレーボール	女子		優 勝
バレーボール	男子		準優勝
硬式野球			準優勝

第54回九州沖縄地区高専体育大会(夏季)の主な成績
(7月8日～23日)

バレーボール	男子		優 勝	全国大会出場
バレーボール	女子		優 勝	全国大会出場
硬式野球			優 勝	全国大会出場
ハンドボール	男子		第3位	
バスケットボール	男子		第3位	
剣 道	女子団体		第3位	
陸上競技	男子走高跳	2E 齋藤 龍洋	第1位	全国大会出場
	男子100m	1A 草場 進太郎	第2位	全国大会出場
	女子走幅跳	1A 金子 穂香	第3位	
柔 道	女子48kg以下級	2C 山内 郁弥	第2位	全国大会出場
水 泳	男子200m個人メドレー	3M 國分 雅斗	第1位	全国大会出場
	男子400m自由形	4S 藤村 統太	第2位	全国大会出場
	男子200m背泳ぎ	4A 北川 智晃	第3位	全国大会出場
	男子50m自由形	1E 桑野 太雅	第3位	全国大会出場
	男子100m自由形	1E 桑野 太雅	第3位	全国大会出場
バドミントン	女子ダブルス	2C 古澤 七海 1C 金丸 楓佳	第3位	
卓 球	男子シングルス	2C 梅木 和弥	第3位	

第54回九州沖縄地区高専体育大会(冬季)の主な成績
(11月11日～14日)

ラグビーフットボール		準優勝	全国大会出場
------------	--	-----	--------

第13回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト
(9月1日～9月3日)

マルチコプター部門	彩雲チーム	4S 馬場 晃志郎 2M 高山 大希 1A 神田 優太	第1位 JAXA賞、 ベストデザイン賞
一般部門	離月チーム	3S 大山 隆太郎 3E 廣瀬 祐也 2C 柴田 寛人 2C 金井 大河 2A 吉田 堯史	ベストプレゼンテーション賞
自動操縦部門	SN-piチーム	4S 千綿 政幸 4S 中島 暢哉 1A 法村 勇杜	第2位 新日鐵住金賞

平成29年度 アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト
(九州沖縄地区大会)(10月29日)

久留米高専Bチーム	ロボット名: EX・Reps	4A 松永 拓也 2A 久保山 徳聖 5E 岡本 直也	特別賞(安川電機賞)
-----------	----------------	-----------------------------------	------------

H a c k U 2017 TOKYO

flying muchoチーム	5S 山本 大介 4S 菅野 暁 3S 江草 亮太 3S 近藤 華 3S 岸川 拓磨	優秀賞
-----------------	--	-----

本校学生が人命救助
JR九州熊本支社から感謝状

踏切内に閉じ込められた高齢の男女を踏切外に誘導し、重大事故を未然に防いだとして、12月4日、男女を救出した本校学生に対して、JR九州熊本支社から感謝状が贈呈されました。

救出したのは、制御情報工学科2年の生田慎太郎さんと、8月25日午後5時頃、JR九州鹿児島本線大牟田～荒尾駅間西原踏切にて、踏切鳴動中に動けなくなっていた男女2人を、遮断機を上げ救出し、人命救助に貢献しました。



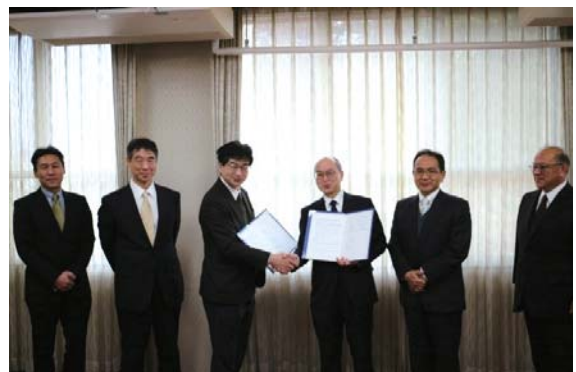
JR九州熊本支社 東支社長(写真右)より感謝状を受け取る生田さん(写真左)

九州大学大学院総合理工学府等と
教育研究交流に関する協定を締結

平成30年1月11日(木)に九州大学筑紫地区キャンパスにおいて、九州大学大学院総合理工学府、大学院総合理工学府、応用力学研究所及び先導物質化学研究所と教育研究交流に関する協定を締結しました。

この協定は、それぞれが教育及び学術研究活動全般を円滑かつ効果的に推進し、教育・研究の充実発展に資することを目的としており、具体的には、①講義及び共同研究等の実施とこれに伴う学生及び研究者の交流、②お互いに関心を有する分野における情報及び資料の交換、③学生のインターンシップ派遣、など様々な交流を行うこととしています。

この協定の締結により、本校の教育・研究のさらなる高度化が期待されます。



握手を交わす原田九大総理工学府長(左から3人目)と
三川久留米高専校長(右から3人目)

平成30年度 大学編入学合格状況等

平成30年2月6日現在

大 学 名	志 願 者 数						受 験 者 数						合 格 者 数					
	機械	電気	制御	生化	材料	計	機械	電気	制御	生化	材料	計	機械	電気	制御	生化	材料	計
豊橋技術科学大学(工学:推)	2			1		3	2			1		3	1			1		2
豊橋技術科学大学(工学)		2		2	1	5		2		2	1	5		1		2	1	4
長岡技術科学大学(工学)		1			1	2		1			1	2		0			0	0
九州大学(工学:推)	1	1	1	1		4	1	1	1	1		4	1	1	0	1		3
九州大学(工学)	3	3	2	1	2	11	3	3	2	1	1	10	2	1	0	1	0	4
九州大学(芸術工学)	1					1	1					1	1	1				1
九州工業大学(工学:推)		2			2	4		2			2	4		1			2	3
九州工業大学(情報工学:推)			2			2			2			2			2			2
九州工業大学(工学)	1					1	1					1	0					0
佐賀大学(理工学:推)				1		1				1		1				1		1
佐賀大学(理工学)	1	3			1	5	1	3			1	5	0	2			1	3
熊本大学(工学:推)		1		1	2	4		1		1	2	4		1		1	2	4
熊本大学(工学)	2	3			1	6	2	3			1	6	2	1			0	3
山口大学(工学)	1					1	1					1	1					1
広島大学(工学)		2				2		2				2		2				2
大阪大学(工学)		1	2			3		1				1		1				1
神戸大学(理)			1			1			1			1			1			1
神戸大学(工学)	1					1	1					1	0					0
名古屋大学(工学)	2			1		3	2			1		3	0			0		0
和歌山大学(システム工学:推)		1				1		1				1		1				1
福井大学(工学)		1				1		1				1		1				1
東京工業大学(工学)		1	2			3		1	2			3		0	1			1
東京工業大学(生命理工学)				1		1				1		1				0		0
横浜国立大学(理工学)	1					1	1					1	0					0
筑波大学(理工学)		1				1		1				1		0				0
筑波大学(情報学)			3			3			3			3			0			0
埼玉大学(工学)		1				1		1				1		0				0
千葉大学(工学)		1	1			2		1	1			2		0	1			1
室蘭工業大学(工)					1	1					1	1					1	1
京都工芸繊維大学		1				1		1				1		1				1
福岡工業大学		1				1						0						0
福岡大学		2				2						0						0
合 計	16	29	14	9	11	79	16	26	12	9	10	73	8	14	5	7	7	41

平成30年度 久留米高専専攻科合格状況

学 校 名	志 願 者 数						受 験 者 数						合 格 者 数					
	機械	電気	制御	生化	材料	計	機械	電気	制御	生化	材料	計	機械	電気	制御	生化	材料	計
久留米高専専攻科(推)	4	4	4	1	3	16	4	4	4	1	3	16	4	4	4	1	3	16
久留米高専専攻科(学)前期	13	7	10	6	6	42	12	5	9	6	6	38	6	4	8	4	2	24
久留米高専専攻科(学)後期	3	4	1	1	3	12	3	4	1	1	3	12	2	2	1	1	2	8
合 計	20	15	15	8	12	70	19	13	14	8	12	66	12	10	13	6	7	48

平成30年度 専攻科大学院合格状況

大 学 院 名	受 験 者 数			合 格 者 数		
	機械・電気システム 工学専攻	物質工学専攻	計	機械・電気システム 工学専攻	物質工学専攻	計
九州大学大学院(総理工:推)	3	3	6	3	3	6
九州大学大学院(総理工)	3	2	5	3	2	5
九州大学大学院(システム生命科学)	3		3	1		1
九州大学大学院(システム情報科学)	4		4	3		3
東京工業大学大学院	2	4	6		4	5
大阪大学大学院(工学研究科)	1		1	1		1
北陸先端科学技術大学院大学	1		1			0
早稲田大学大学院	1		1	1		1
東京大学大学院	2		2	2		2
奈良先端科学技術大学院大学	1		1			0
合 計	21	9	30	15	9	24

平成29年度(平成30年3月)卒業予定者の就職内定状況

平成30年3月 現在

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
NSプラント設計株式会社 株式会社LIXIL(リクシル) 株式会社NIPPO 株式会社SUBARU 株式会社オーレック 株式会社タマディック 株式会社東京アールアンドデー 株式会社日産テクノ 株式会社ブリヂストン 久留米工場 株式会社丸三電機 久留米ガス株式会社 コニカミノルタ株式会社 第一精工株式会社 ダイキン工業株式会社 千代田化学工業株式会社 東海旅客鉄道株式会社(JR東海) 東レ株式会社 日揮株式会社 本田技研工業株式会社 三菱ケミカルエンジニアリング株式会社 三菱重工業株式会社 新日鐵住金株式会社 日鉄鉱業株式会社	大日通信工業株式会社 NSウエスト株式会社 株式会社MJC 株式会社OGCTS 株式会社富士通九州システムサービス 株式会社名村造船所 西部電機株式会社 西部電気工業株式会社 東芝メディカルシステムズ株式会社 三菱電機グラントエンジニアリング株式会社 三菱ケミカルエンジニアリング株式会社 旭化成株式会社 九州電力株式会社 関西電力株式会社 中部電力株式会社 電源開発株式会社(J-POWER) 平田機工株式会社	協業組合朝倉浄水 CTCシステムマネジメント株式会社 アイシン・コムグループ株式会社 株式会社メンバーズ 株式会社古賀歯車製作所 株式会社三井ハイテック 株式会社東洋新薬 株式会社日産テクノ 株式会社日本ビジネスエンジニアリング 株式会社富士通九州システムサービス キヤノンシステムアンドサポート株式会社 サントリースピリッツ株式会社 ソーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 第一精工株式会社 ダイキン工業株式会社 武井電機工業株式会社 トヨタ自動車九州株式会社 九州電力株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本) 積水化学工業株式会社	旭硝子株式会社 化学品カンパニー 旭硝子株式会社 中央研究所 アステラス ファーマ テック株式会社 小川香料株式会社 花王株式会社 株式会社ゴードー 株式会社篠崎 株式会社三井化学分析センター 株式会社ヤクルト本社 佐賀工場 九州サントリーテクノプロダクツ株式会社 三洋化成工業株式会社 JXTGエネルギー株式会社 JNC株式会社 水俣製造所 シオノギ分析センター株式会社 昭栄化学工業株式会社 昭和電工株式会社 大分コンピナート 昭和電工株式会社 川崎事業所 住友精化株式会社 大日精化工業株式会社 武田テバファーマ株式会社 中外製薬工業株式会社 東洋インキSCホールディングス株式会社 日東電工株式会社 豊橋事業所 ニプロ株式会社 ライオン株式会社 ロイヤル株式会社	日本精工九州株式会社社 JX金属株式会社 磯原工場 JX金属株式会社 倉見工場 株式会社LIXIL(リクシル) 株式会社SUBARU 株式会社アールスティ 株式会社ジェイテクト 株式会社タンガロイ 株式会社東研サーモテック 株式会社半導体エネルギー研究所 新日鐵住金ステンレス株式会社 独立行政法人国立印刷局 日清紡メカトロニクス株式会社 株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング 高周波熱練株式会社 三井金属鉱業株式会社 三池事業所 東伸熱工株式会社 東洋鋼板株式会社 昭栄化学工業株式会社

順不同

平成29年度(平成30年3月)専攻科修了予定者の就職内定状況

平成30年3月 現在

機械・電気システム工学専攻	極東開発工業株式会社 ダイハツ工業株式会社 川崎重工工業株式会社 水ing株式会社 株式会社ハイマックス	物質工学専攻	沢井製薬株式会社 日東電工株式会社 豊橋事業所
---------------	--	--------	----------------------------

順不同

本号掲載記事の無断転載を禁止します